

〔一般教養科〕

〔区 分 A〕

野口 裕子

睡眠アンケートの分析による睡眠障害発見と支援体制の確立

松村弘志*1、宮田 剛*2、西井靖博*3、近藤美智江*4、野口裕子*5

*1新居浜工業高等専門学校電子制御工学科、*2新居浜工業高等専門学校機械工学科、*3新居浜工業高等専門学校生物応用化学科、*4新居浜工業高等専門学校学生課、*5新居浜工業高等専門学校一般教養科
高専教育、第30号、pp575-580、(2007.3)

学生相談室が関わった相談から睡眠障害の学生が発見された事例紹介と、その事例を重く受けとめた相談室が実施したアンケート分析を中心として「授業中に居眠りをする学生」への対応について考察し、更に、睡眠障害が疑われる学生についての支援のあり方について論じたものである。

〔区 分 B〕

鹿毛 敏夫

図説 宇佐・国東・速見の歴史

岩見輝彦*1、鹿毛敏夫*2、後藤重巳*3、野崎一郎*4、ほか31名

*1三浦梅園資料館、*2新居浜工業高等専門学校一般教養科、*3別府大学文学部、*4日出町立萬里図書館
郷土出版社、(2006.12)

市町村の広域合併が進んでいく現状のなかで、新しい地域単位を見据えた地方史像の構築をめざし、九州北東部の宇佐・国東・速見の3地域を同一の文化圏としてとらえた新しい図説歴史書を発行した。原始・古代・中世・近世・近代・現代までの各時代項目に加え、郷土の遺産の紹介やコラム記事の挿入により、専門家だけでなく一般にもわかりやすい図説概説書をめざした。115項目の歴史事象を35名の執筆者で分担し、写真資料をふんだんに使った新しい地域像が提示できた。

〔区 分 C〕

尾崎 司郎

基本動詞 “Give” に関する一研究 (1)

尾崎司郎*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

新居浜工業高等専門学校紀要第43巻、pp47-56、(2007.2)

本稿は、基本動詞 “Give” の表現例 (1) Give + sb/sth + fear, surprise, etc. の型 (目的語に感情を表す語が来る場合)、(2) Give + sb/sth + a look, laugh, push, etc. の型 (目的語に同形の動詞を持つ名詞が来る場合)、(3) Give の目的語に身体の一部を表す語が来る用例についてまとめたものである。

鴻上 政明

英語諺収集 (1)

鴻上政明*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

新居浜工業高等専門学校紀要第43巻、pp.79-88、(2007.2)

英語の諺のうち動物を含むものを収集し分類した。英語の諺にdogやcatを用いたものが多いのは、犬や猫が人間の生活に如何に身近に関わっているかを如実に表している。今回は、動物、特に哺乳類を扱った類例を集めて、日英では使われる動物に違いがあることに気づいた。収集例の半数以上が日英ともに動物が使われている。

1. dog の類例が89例と一番多い。

Barking dogs seldom bite. 吠える犬は噛みつかぬ。

A dog is stout on his own dunghill. 家の前の痩せ犬、内弁慶。

A living dog is better than a dead lion. 麒麟も老いては驚馬に劣る。

A waking dog barks from afar of a sleeping lion. 犬の遠吠え。

An old dog barks not for nothing. 老犬は虚に吠えず。

2. cat の類例が42例と二番目に多い。

Cats hide their claws. 能ある鷹は爪を隠す。

A cat has nine lives, and a woman has nine cats' lives. 猫は9つの命を持ち、女は9匹の猫分の命を持つ。

A scalded cat fears cold water. 羹に懲りて膾を吹く。

A timid cat makes a proud mouse. 猫の留守は鼠の代。

All cats are grey in the dark. 夜目遠目傘の内。

3. horse の類例が30例と三番目に多い。

A good horse becomes never a jade. 腐っても鯛。

A good horse oft needs a good spur. 駆け馬に鞭。

A horse may stumble though he has four legs. 猿も木から落ちる。

A nod is as good as a wink to a blind horse. 馬の耳に念仏。

A scabbed horse and a sandy dike. 類は友を呼ぶ。牛は牛づれ馬は馬づれ。

鹿毛 敏夫

アジアから見た瀬戸内海

鹿毛敏夫*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

愛媛新聞、(2007.1.20～1.24)

松山市で中世伊予国の守護河野氏の居城・湯築城跡の発掘調査が始まって20年近くになる。発掘調査では、家臣団武士の屋敷や庭園、排水溝をもつ道路の遺構などが確認され、数多くの土器や陶磁器類が見つっている。なかでも中国産の青磁・白磁の碗や皿に加え、朝鮮半島からの高麗青磁、タイ産の陶器の出土は特に注目される。近年、瀬戸内海沿岸の各県でも同様の中世遺跡の調査・研究が進められ、アジアとの結び付きの深かった内海沿岸地域の歴史の実態が明らかになってきた。こうした状況を踏まえ、瀬戸内海の中世史をアジアの視点から一般向けにわかりやすく紹介する記事を5回連続で執筆した。テーマは、「湯築城跡と豊後府内」「梵鐘が語る国際交流」「狩野派絵師の瀬戸内遊行」「寺の名をした教会」「豊予海峡の歴史」の5テーマである。

鹿毛 敏夫

アジアから見た豊後大友氏

鹿毛敏夫*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

大分合同新聞、(2006.6.17～連載継続中)

九州の戦国大名大友氏が活動した15・16世紀は、世界史上の大航海時代に相当する。この時代、西日

本各地の地域権力は、日明・日朝関係を軸に自らも主体的なアジア外交を展開し、東アジアには環シナ海交流圏とも呼べるマクロな文化圏が形成された。海域交流史における近年の活発な研究蓄積の成果を一般向けに広く還元するために、新聞紙上の連載企画として、中世日本の歴史をアジア諸国との関わりのなかで叙述する記事を執筆した。今年度分の連載は、以下の18テーマ。6/17「中国浙江省に沈んだ貿易船」、6/24「貿易商人・仲屋宗悦」、7/9「タイ・アユタヤ王朝との交易」、7/22「ドラマ『宗麟』とゾウ」、8/6「遣明船と寧波」、8/20「松平健と宗麟」、9/3「輸出された豊後硫黄」、9/27「西湖へのあこがれ」、10/15「万寿寺境内に栄えた寺内町」、10/29「雪舟と府内」、11/11「雪舟の見た中国」、12/3「靖国神社と宗麟」、12/24「沈没船のロマン」、1/13「カンボジアからの贈り物」、1/28「塔の影が映る中国・寧波」、2/13「木柶の陶磁器」、3/2「顕徳町と『ケントク寺』」、3/18「雪舟をめぐる禅僧たち」。なお、連載は次年度以降も継続予定である。

野田 善弘

南京時期の唐君毅について

野田善弘*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

東洋古典学研究 第22集、pp67-99、(2006.10)

唐君毅は、現代新儒家の代表的人物であり、ドイツ観念論哲学と中国伝統思想を融合させた現代中国屈指の哲学者である。

筆者は本稿において、唐君毅がその思想の枠組みを南京の国立中央大学において確立したことに着目し、その思想形成過程において国立中央大学の知識人たちが大きな影響を与えたことを明らかにした。

なお、本稿は科学研究費補助金「東南大学知識人の思想に関する研究」(若手研究(B))の成果の一部である。

野田 善弘

劉伯明の思想

野田善弘*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

新居浜工業高等専門学校紀要 第43巻、pp96-106、(2007.2)

本稿は、東南大学の礎を築いた劉伯明について、その人と思想を論じたものである。

劉伯明は、保守反動として著名な学衡派の代表的人物であるが、その思想を詳細に検討すれば、劉は科学精神を重視した思想家であり、決して反動的知識人ではないことがわかる。これによって、東南大学に冠せられた負のイメージを払拭することもできるであろう。

なお、本稿は科学研究費補助金「東南大学知識人の思想に関する研究」(若手研究(B))の成果の一部である。

井上 嘉仁

言論の営利性と保護水準の低下についての考察——営利的言論の類型化不可能性——

井上嘉仁*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

新居浜工業高等専門学校紀要第43巻、pp67-78、(2007.2)

従来憲法学では、言論の営利／非営利の区別を保護の軽重に直結させて論究されてきた。判例は、表現内容の客観性ゆえの真実性の検証容易性と、利潤獲得動機に基づく言論の耐久性(萎縮効果の小ささ)を営利／非営利を区別する中心的な論拠とし、公共的利益との関わり等を考慮し、常識的な違いを見いだそうとする。

これに対して近時の学説は、営利性ゆえの区別を否定する傾向にある。区別を否定し政治的言論と同等の保護を与えるべきとする説と、むしろ公共的利益との関わりを重視し、とりわけ民主政のプロセスへの参加的側面を強調し、営利的言論は政治的言論ほど保護されないとする説が注目に値する。

本稿では、営利的言論とは何かという問いをたてるよりも、具体的審査段階において、当該言論の特徴を子細に問うことがより重要であることを示唆した。かく考えれば、Posnerの示した表現の自由の公式や公共選択的アプローチは、より実践的である。表現の自由の公式は、規制対象言論の営利的特徴をパラメータの一つとし、他の要素との比較衡量の結果、結論を導く考え方だからである。また公共選択アプローチによれば、言論が営利的か否かはさほど重要ではなく、言論規制がレントを生み出すか否かが重要なのである。

（ 区 分 D ）

野田 善弘

東南大学知識人の思想に関する研究

野田善弘*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

平成16年度～18年度科学研究費補助金（若手研究（B））研究成果報告書、(2007.3)

平成16～18年度の間に筆者が発表した東南大学知識人に関する論文をもとにして、大幅に加筆増補し、まとめたものである。

東南大学の知識人たちは、北京大学の進歩的知識人を批判したことから、保守反動のイメージでとらえられ、今まで中国近代思想史の中で取りあげられることは極めて稀少であった。筆者は、そのような東南大学に対する一般的評価を再検討すべく、東南大学知識人の思想を個別具体的に研究した。本報告書によって、東南大学が有する負のイメージを払拭し、南京を中心とした近代中国思想研究の可能性を示すことができた。

（ 区 分 E ）

野村 真理子

日本人英語学習者のスピーキングコーパスに見る動詞の習得

野村真理子*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

第32回全国英語教育学会高知研究大会、(2006. 8)

本発表では、日本人英語学習者のインタビューテストにおける発話を収録した大規模なスピーキングコーパス-The NICT JLE Corpus-を用いて、規則動詞と不規則動詞の過去形に焦点を当てて、それぞれの過去形の習得状況を発達段階による違い、英語での使用頻度との関係、動詞の意味特性の影響の観点から分析した結果を示し、考察を加えた。

鹿毛 敏夫

戦国大名大友氏の東アジア外交

鹿毛敏夫*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

科学研究費補助金特定領域研究「東アジアの海域交流と日本伝統文化の形成」海港地域班・寧博関係班合同研究会、(2006.4)

2005年度から始まった文部科学省科学研究費補助金特定領域研究「東アジアの海域交流と日本伝統文

化の形成」における海港地域班・寧博関係班の合同研究会において、西国の守護・戦国大名による東アジア外交の実態を史料に基づいて提示するとともに、中世後期日本の地域権力の動向が当該期の中国を中心とした国際秩序のなかにどう位置付けられていったかを中国側史料を援用しながら明らかにした。

鹿毛 敏夫

戦国大名、豊後・大友宗麟の館

鹿毛敏夫*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

朝日カルチャーセンター講座(福岡朝日ビル)、(2006.7)

朝日新聞社の朝日カルチャーセンターにおいて、今年度講座のなかの「日本の城跡・城館・城郭をめぐる～中世編」講座として、1998年に発見された戦国大名大友氏の館跡の発掘と文献調査による研究成果の最新状況について一般向けにわかりやすく講演した。遺構のスライド写真と詳細な文献史料を提示するとともに、コンピュータ・グラフィックスによる大名館の復元の現状もビジュアルに紹介した。

鹿毛 敏夫

中世東北部九州の都市・流通構造と大友氏

鹿毛敏夫*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

中世都市・流通史懇話会、(2006.9)

第11回中世都市・流通史懇話会のシンポジウムにおいて、九州大名による都市政策や蔵経営、祭礼掌握、河川・海上の流通政策や港町支配の特徴を、具体的史料を提示しながら明らかにした。また、パネルディスカッションにおいては、考古学による研究データと文献史学によるデータをつき合わせながら、今後の学際的研究の方向性について議論した。

鹿毛 敏夫

府内のまち・宗麟の栄華

鹿毛敏夫*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

中世大友再発見フォーラムⅡ(大分市)、(2006.10)

大分市および大分市教育委員会主催の中世大友再発見フォーラムにおいて、発掘調査と保存整備の進む戦国大名大友氏館跡とその周辺遺構について、主に文献史料により館の建設の時期を明らかにするとともに、中世都市府内の歴史と発展の軌跡を広域文化圏の視点から一般向けにわかりやすく説明した。パネルディスカッションにおいては、俳優の荻谷俊介氏、文化庁記念物課主任文化財調査官の伊藤正義氏らとともに、遺跡研究の現状とその重要性、および将来的保存・復元の展望について議論した。

鹿毛 敏夫

中世豊後の唐人町

鹿毛敏夫*

*新居浜工業高等専門学校一般教養科

九州史学会大会(九州大学)、(2006.12)

「戦国時代から江戸時代初頭にかけて、主に西日本の各地に形成された、在留中国人または朝鮮人の居住に因む町名」と定義される唐人町に焦点をあて、特に明代の中国から文禄期以前の日本社会に渡来・定住した唐人たちが、当該の中世日本社会のなかでどのように受け入れられ、いかなる社会的機能を担っていたのかを、残存史料を駆使して明らかにした。